

## ISO/TC 8/SC 13(海洋技術分科委員会)担当分

議長:Mr. Jiabiao Li(中国)、幹事国:中国(SAC)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC13	ISO/WD 3482	Technical Guidelines for the Active Source Exploration of Ocean Bottom Seismometers (OBS) (旧題: Requirements of Ocean Bottom Seismometers (OBS) investigation)	海底地震計(OBS)の活発な資源探査のための技術指針(旧題:海底地震計(OBS)調査のための要件)	本規格案は、海底地震計(OBS)を使用した海洋地球物理学調査の技術設計、機器の技術指標、海洋検出手順、データ処理と解釈、および結果概要を取り纏めている。 NP投票において、日本は以下の意見にて反対票を実施した。  「OBSは観測目的に応じて、その目的を達成するために開発されている。例えば、観測目的毎に使用するセンサー、バッテリー周波数が異なる。そのため、標準化には適さない。」  しかしながら、NP投票は賛成多数で承認されたため、規格作成が着手されることとなった。その後、WD(作業原案)について3度の意見照会が行われ、日本エキスパートの意見は概ね反映された。 現在、上記意見照会の結果を踏まえ、CD(委員会原案)段階を省略する投票が行われている。	CD段階省略投票 実施中 投票期限 2021.06.30~07.30	—
SC13	ISO/AWI 5411	Submersibles - Terminology	潜水艇—用語	潜水艇の種類、性能、耐圧構造、システム及び装備、試験及び検査といった5つの側面を含む、潜水艇の標準化された用語を取り纏めたもの。	NP投票承認 2021.01.13	—
SC13	ISO 21173:2019	Submersibles - Hydrostatic pressure test - Pressure hull and buoyancy materials	潜水艇の耐圧構造の静水圧試験方法	潜水艇の耐圧構造の静水圧試験を取り纏めている。	2019.08	—
SC13	ISO 21851:2020	Standard Design Criteria of Complex Virtual Instruments for Ocean Observation	海洋観測のための複合バーチャルインストルメントの標準設計基準	海洋観測機器及び関連メタデータから収集したデータの加工及び表示のために用いられるCVIs(センサー類が観測したデータをコンピュータ上に表示させるためのソフト)に基づいた海洋観測ソフトウェアシステムの枠組みを取り纏めたもの。	2020.08	—
SC13	ISO 22013:2021	Ships and marine technology -- Marine sensor performance	船舶及び海洋技術—海洋センサー性能	通常遭遇するフィールド条件の範囲において耐えうるために重要となる仕様を規定する、海水と淡水のセンサ性能基準を定義するもの。仕様としては、正確性(Accuracy)、精度(precision)、時間応答やドリフト、環境要因(温度、圧力(水深)、生物付着、等)が焦点となる。  2020年1月16日を回答期限としたDIS投票が賛成多数で承認され、2021年1月に正式なISO規格として制定された。	2021.01	—
SC13	ISO 22252:2020	Manned submersibles — Breathing air supply and carbon dioxide absorption— Design requirements	有人潜水艇—呼吸用酸素の供給及び二酸化炭素の吸収—設計要件	本規格は、設計段階にある、有人潜水艇のman-rated chamberのための、酸素供給及び二酸化炭素吸収に関する要件について取り纏めている。 本規格は、潜水艇のatmospheric man-rated chamberに適用される。軽量ダイビング、重量ダイビング、飽和潜水、高圧室等は適用外とする。 □	2020.01	—

SC13	ISO/AWI 22787	Technical specification for marine biotic survey in area — General principles, definitions and requirements	海洋生物相の調査のための試験要件--一般事項、定義及び要件	技術的設計要件、調査要件、調査及び解析のための装備、サンプリング、サンプル保護及び解析を含む、海底における海洋生物相の調査に係る一般的な技術要件について取り纏めている(技術的な設計要件、調査要件、調査及び解析のための装備、サンプリング、サンプル保護及び解析等)。  2019年7月15日×切のNP投票に対して、日本は賛成(意見付き)の回答を実施。	NP投票承認 2019.08.20  WD作成中	—
SC13	ISO/AWI 22804	General technical requirement of marine conductivity-temperature-depth (CTD) measuring instruments	海洋電気伝導度・温度・深度測定装置の一般技術的要件	海洋観測に用いられるCTD(電気伝導度・温度・深度)観測装置の技術要件について規定している。  2019年7月14日を×切としたNP投票について、日本は以下の意見にて賛成した。  現在、ユーザーがCTDのカタログ情報などから測器を選択する際に、例えばaccuracyやstability、response timeなど記載されている数値の算出方法(定義)などが、メーカーによってまちまちだったりすることもあり、単純に比較ができない現状がある。  この規格は上記のようなCTDの重要な情報について定義などをはっきりさせるもので、ISOのような統一された規格があれば、いろいろなメーカーを比較できるためユーザーの役に立つと考えられる。	NP投票承認 2019.07.14	
SC13	ISO/DIS 23040	Specification for marine sediments in seabed area -- Sediment interstitial biota survey	海底地域における海成堆積物に関する仕様—海底堆積物の生物相の調査	海底堆積物の生物相の調査に係るサンプル収集、実験手順及びツール、サンプル解析及びデータ管理について規定する。  2020年9月29日期限で実施されたDIS投票は特段の反対なく承認された(日本は賛成(意見付き))。	DIS投票承認 2020.09.29	—
SC13	ISO/DIS 23446	Product water of seawater reverse osmosis desalination	海水の逆浸透法により淡水化した生産水	海水の逆浸透法により淡水化した生産水の技術要件を取り纏めたもの。  担当委員会であるTC 8/SC 13/WG 3(海水淡水化)エキスパート宛て、2020年3月-4月に意見照会が実施された。その後、2020年6月28日×切でCD投票を省略するための投票が実施された。日本は、本規格案の技術的内容は問題ないとしながらも、規格の様式を定めるISO/IEC専門業務用指針第2部に本規格案が準拠しておらず、DIS段階に進むことは時期尚早と判断し、反対回答を投じた。また、ドイツ及びサウジアラビアからも反対回答があった。この結果、CD段階の省略は否決され、2021年1月13日を回答期限として、CD投票が行われた。このCD投票の結果、特段の意見及び反対票は提出されず、DIS投票段階へ進むことが承認された。 DIS投票は、2021年6月24日×切で実施され、特段の技術的意見もなく、全面賛成で承認された(日本は賛成回答)。	DIS投票承認 2021.06.24	—
SC13	ISO/DIS 23730	Ships and marine technology -- Marine Environment impact assessment (MEIA) -- General technical requirement on marine environment impact assessment	海洋環境影響評価(MEIA) — 海洋環境影響評価に関する一般要件【日本主導】	海洋環境影響評価に関する技術的手法・手順を一般的に記述するもの。  2021年7月7日を投票期限として、DIS投票を実施中。	DIS投票実施中 2021.04.14~07.07	—

SC13	ISO/PRF 23731	Ship and marine technology - - Marine Environment impact assessment -- Long term in situ image based surveys in deep sea environments	海洋環境影響評価(MEIA) - 深海環境における長期間 の画像に基づく調査方法 【日本主導】	海底の画像を長期(最長1年)にわたり、自動的・間欠的に撮影し、回収する方法について 取り纏めたもの。  2020年11月17日を回答期限としたDIS投票が承認された。  現在、制定に向けた校正がISO/CS(中央事務局)で行われている。	DIS投票承認 2020.11.17	—
SC13	ISO/PRF 23732	Ship and marine technology - - Marine Environment impact assessment -- General protocol for observation of meiofaunal community	海洋環境影響評価(MEIA) - メイオフィーナコミュニティ の観察のための一般的なブ ロトコル【日本主導】	海底のメオファウナ(微生物)を、メタゲノム及び画像解析手法により、定性的及び定量的 に分析する方法について取り纏めたもの。  2020年11月17日を回答期限としたDIS投票が承認された。  現在、制定に向けた校正がISO/CS(中央事務局)で行われている。	DIS投票承認 2020.11.17	—
SC13	ISO/PRF 23734	Ship and marine technology - - Marine environment impact assessment -- Onboard bioassay to monitor seawater quality using delayed fluorescence of microalga	海洋環境影響評価(MEIA) - 微細藻類の蛍光を使用した 海水の質を観察するため の生物検定法【日本主導】	海底鉱物資源を海表面に揚げるときに周囲の海水に漏れ出る場合の生物影響評価を、海 面付近の代表的な藻類により測定する方法について取り纏めたもの。  2020年11月17日を回答期限としたDIS投票が承認された。  現在、制定に向けた校正がISO/CS(中央事務局)で行われている。	DIS投票承認 2020.11.17	—
SC13	ISO/WD 23745	Ships and marine technology--General secification for shipborne meteorological instruments	船舶及び海洋技術--船上気 象測器の一般的な仕様	船舶の気象測器に関する用語と定義、一般的な技術仕様、データ形式、環境適応性、試 験環境、および方法を取り纏めている。  2020年3月14日を回答期限としたNP投票は承認された。 日本は、本件への意見提出をWMO(世界気象機関)に委ねることが適切と判断し、同投票 に「棄権」回答を提出した。	NP投票承認 2020.03.14  WD作成中	—